歩き続ける主婦会

〝植物人間〟受川さん。何を思つているのだろうか？

懇談の輪を広げて……

働く主婦の苦しみ語り合う

三池主婦会は七五春闘を前に、主婦会員一人ひとりの現状を正しくとらえ、そして改めて団結を固めなおしながら、働く者のしあわせをいくらかでも前進させてゆくための努力を強めようとしている。

画期的なことだが、三池主婦会はこの一～二日（一泊二日）に玉名市の三池保養所で中央分会長会議を開く。

これはかねて同主婦会の中央執行委員会で検討されてきた、ブロックごとの働く主婦の懇談会とCO闘争を地域でどう広げるか――などの問題について、主婦会がこれから歩むべき方向を見きわめようというもの。

とくにブロック別働く主婦の懇談会の計画は重要で、二月六日から八日まで七ブロックに分かれて主婦会員が集まり、お互いに働いている企業・職場の労働条件を出し合い、苦しみと悩みに耳をかたむけ、物価の現状をめぐって意見を交換し、そして主婦会としてどう歩いてゆくべきか、を見きわめるのだという。

中央分会長会議は、そのような非常に重大な問題について、分会長一人ひとりが心からうちとけ合いながら、その計画を真に実のあるものにするためにどうすればよいか、率直に語り合うことになる。

まさに画期的な中央分会長会議の成功に、期待されるところは大きい。

三池主婦会の活動は、困難な条件にぶつかりながらもねばり強くつづけられている。

去年の師走には、会員で入院中の不幸な人を見舞ってよろこばれ、とれまたはじめての活動だったが〝冬休み児童対策〟も行なうことができた。これなどプロ野球巨人軍の新監督長島茂雄を描いた〝栄光の背番号三番〟のほか、〝海底大戦争〟〝モスラ〟などの映画の鑑賞で、集ってきた子どもたちは飛びあがってよろこんだ。

こういった三池主婦会の歩み――そこに三池のたたかいの一つの土台を、改めて見るのである。

熊本県主婦の会労金育成へ

熊本県総評主婦の会は、三十九日役員会を開いて、今では労働者の闘いの武器としてなくてはならない存在となってきた、労働金庫の育成方針をきめた。

方針は三項のおもな項目をもっている。

(1)各地区ごとに、労金育成の懇談会を開催する。（これはすでに実施に移されている）

(2)労金に対する、預金あずけ運動の展開。

(3)電々公社に支払う電話料金を労金を通じてふりこむ運動を広げる。

七五春闘を前に、熊本県総評主婦の会が取り組みをはじめた、右の労金育成運動は、一般労働者の関心がまだそれほどでないときだけに、注目すべきことである。

いっそう固く――手を取り合おう

「一主婦の投書に思う」から

本紙の新年特集号に掲載された〝一主婦会員〟の投稿、「主婦会を考える」について、こんど匿名の方から、「一主婦の投書に思う」、という一文が寄せられました。

そこにはまた考えさせられる大切な内容が、含まれていました。

もっともその中には、「一部を見て、全体の事実を否定するようないい方は、組織的にプラスになるどころか、ナンセンスです」といった鋭い言葉もございました。

「だが（とこの一文はつづけて）、いまの主婦会運動は、生活防衛のために主婦の九〇パーセント近くが働いている現状のもとで、役員になり手のないことが大きな悩みです」と述べ、そして次のように訴えています。

「その中で、執行部を務めて下さる七人の役員さんは、本当に経済的にも精神的にも大変だ、と思います。

むしろ私たち主婦会員が、動員にしても行事にしても、ややもすれば役員さんまかせではないでしょうか。主婦会結成の原点に帰って反省することは、それぞれの立場にある会員みんなではないでしょうか」

この一面を見ることもまた、大切な点だと思われますが、いずれにもせよいま三池主婦会の存在意義をもう一度心深くうけとめて、新しい年のたたかいを目指して歩いてゆくようにしましょう。寄せられた一文も、その最後に次のように述べています。

「新しい年も、私たちの生活を守るたたかいはきびしく、目前の春闘にひきつづいて、統一地方選挙等と課題が山積しております。どうすることが統一と団結を強化することになるのか皆で考えて、新しい年の出発にしたいと思います」

まして、「明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、今年こそは少しでも、幸わせになりたいと思うのですが、私たちが心からおめでとうと言い合えるのは、まだ先のようです」（右の一文の冒頭の言葉）と、新年からもうグチをこぼさなければならない実生活なのですから。

いっそう固く手を取り合って、歩いてゆきましょう。

短歌

CO患者を見舞って

神奈川県　阿久津　清

合理化で人の命を虫けらに踏んで殺した三井独占
物言わぬ大きな子供を前にしてつきそう母悲しみ
誘う
病室を我が家と見たて毎日を子供の為と外に出ら
れず
看護する姿にうたれああ我はあまりの事に声も出
ずするなし
青春を資本の為につぶされて楽しきことも知らず
に生きる

×

阿久津さんは〝横浜交通労働組合〟所属の方です。

年頭に

＝短歌＝

三川指導部　小川　紘志

一一・九屈辱のうらみはらすまでやすらぎもなしわが家の正月
病症で迎える元旦十二度目植物人間受川孝
砂川にまたガス爆発この悲惨テレビ見る目にこぶしがふるえる

詩

三本線をぬりかえる

宮浦措導部　平田光男

私の鉄帽

数十回ぬりかえた
それは三本線が
くっきりと白く浮きあがり
心をひきしめるため

昭和三十五年十二月一日平和就
労する時
全員三本線をつけていた三池労
組の俺たち組合員
誇りを胸一パイにつめて

それがある時は
三本線がぐしゃぐしゃになり
歯が抜けたように
三本線の鉄帽ぐるみぬぎ棄てて
退職していったり
時には
会社からねらいうちにされ
鉄帽が飛ぶ

彼は
明日が停年
彼は重ぐちで
小柄で
いつもにこにこしていて
機械工を四十数年

心から「御苦労さま」
あなたのあの時の
苦しみを
悲しみを
喜びを
笑い合ったことの
お話を大切にしながら
私は
今日も
三本線をぬりかえる

×

新年号にご投稿いただきながらも、掲載に間に合わなかったことをおわびいたします。【編集部】

安見

国民の七〇パーセントが見ているといわれるNHKご自慢の紅白歌合戦も、NHKにはまことに申しわけないことながら、見るのは最後の方だけで、夫と私はまるで一年の疲れを総決算するかのように、コタツの中に眠りこんでしまうのが、ここ数年来の大みそかの夜の過ごし方である。

それでも元旦ともなれば何となく心新たになり、親子四人お膳を囲んで「おめでとうございます」と、他人行儀に深々と頭を下げる。それが奇異にうつらないから、正月とは不思議なものだと思う。

闘争本部で、組合員、主婦会員集まっての団結の誓いに心をさらにひきしめ、昼頃ともなれば、やがて届けられるはずの年賀状を待ち構える。玄関にその気配でも仕ようものなら、日頃鈍重な私に似合わず、子供に先んじてパッと立ちあがる、きわめて行動的な私に変身する。

年賀状に思うこと

主婦会七夕　中原　千春

――昨年は試練の連々続でした。

――三池での交流が、年賀状を書く度に、新たな決意となってよみがえります。

――秋に子どもが生れました。これで、まなぶの読者が一人ふえたことになります。

――私も社会新報の総分局長を受け持ち、微力ながら頑張って居ります。

などなど。友達のやらオルグさんのやら、中には気がかりなものやら。一人ひとりの顔を思い浮べると、自分の顔が思わずゆるんでしまう。

宮島さんが亡くなられたと聞いては悲憤の電話を、三池で座り込みがはじまると知っては激励の電話をかけてくれる、若い〝まなぶ〟の皆さん。

一つの目標に向かって進む労働者の固いきずなが、こんなにも私たちの心にはげましと展望を、そして若い息吹さえ伝えてきてくれる。

人間が人間らしく扱われない案ばくとした世にあって、ことさらに人と人とのふれ合いが大事になってきている今日、三池と全国の働く仲間の皆さんとの交流は、ひときわさん然と光を放っている。

年ごとに増えてゆくわが家の年賀状を手にして、思ったことである。

――お多幸をお祈りします。

――今年はなお一層、貴女との友情がきめ細かになるような気がします。

素早く、年賀状の輪ゴムをはずす。

と、ある、ある。あの人のも、この人のも。